

令和5年度の主な経費（一般会計）

歳入 **232億9,264万円**



歳出 **223億7,507万円**



いろいろ経費があるみたいだけど、私たちの生活で身近なものは？

経費の中には聞き慣れないものもあるかと思いますが、主なものは以下のとおりです。

民生費関係

障がい者や高齢者に対する福祉、子育て支援などのための経費

- 障害者自立支援給付に要する経費 12億5,113万円
- 生活保護に要する経費 10億9,883万円
- 保育所等の運営管理に要する経費 8億5,879万円

土木費関係

道路、橋、河川、公園の整備など、まちづくりのための経費

- 除雪・排雪対策に要する経費 6億6,379万円
- 道路の新設改良事業費 2億7,624万円
- 道路・橋りょうの維持に要する経費 2億2,521万円

衛生費関係

健康で衛生的な生活を送るための保健、医療、環境などのための経費

- じん芥の収集処理に要する経費 8億6,773万円
- 保健衛生対策に要する経費 5億3,073万円
- 新型コロナウイルス感染症対策に要する経費 1億7,227万円

教育費関係

学校教育や生涯学習の充実、スポーツ等の振興のための経費

- 学校給食の実施に要する経費 3億3,703万円
- 小学校費 1億9,462万円
- 中学校費 8,926万円
- 体育施設の運営管理に要する経費 7,770万円

まちの家計簿 決算と執行状況からみる市の財政

滝川市の令和5年度の一般会計・各特別会計・各企業会計の決算がまとまりました。皆さんから納めていただいた税金や国・道からの補助金などがどのように使われたのかをお知らせします。なお、令和5年度決算については、今年度の第3回滝川市議会定例会において審査の結果、認定されました。

令和5年度決算状況

決算とは、市に1年間に入ってきたお金（歳入）と使ったお金（歳出）の最終合計を表したものです。下の表のとおり、令和5年度の一般会計は歳入が232億円、歳出が223億円となっており、特別会計合計は、歳入100億円、歳出92億円となっています。

一般会計・特別会計 歳入歳出の決算状況

区分	歳入決算額 (1)	歳出決算額 (2)	歳入・歳出差引額 (3)=(1)-(2)	翌年度に繰越すべき財源 (4)	実質収支額 (3)-(4)
一般会計	232億9,264万円	223億7,507万円	9億1,757万円	1,097万円	9億660万円
特別会計					
国民健康保険特別会計	44億2,810万円	44億2,810万円	0	0	0
公営住宅事業特別会計	7億7,936万円	6億7,796万円	1億140万円	0	1億140万円
介護保険特別会計・保険事業勘定	40億3,408万円	34億6,534万円	5億6,874万円	0	5億6,874万円
介護保険特別会計・サービス事業勘定	6,843万円	2,046万円	4,797万円	0	4,797万円
後期高齢者医療特別会計	7億284万円	7億121万円	163万円	0	163万円
特別会計合計	100億1,281万円	92億9,307万円	7億1,974万円	0	7億1,974万円
一般・特別会計合計	333億545万円	316億6,814万円	16億3,731万円	1,097万円	16億2,634万円

※端数処理のため、合計が合わないことがあります。

企業会計

収益的収支（税抜）	
収入	12億5,929万円
支出	12億1,269万円
差引	4,660万円
資本的収支（税込）	
収入	3億7,401万円
支出	8億6,944万円
差引	△4億9,543万円

収益的収支（税抜）	
収入	69億6,294万円
支出	69億6,338万円
差引	△44万円
資本的収支（税込）	
収入	7億1,905万円
支出	10億9,171万円
差引	△3億7,266万円

【一般会計・特別会計・企業会計とは】

行政に必要なすべての経費を一つの会計で扱おうと、複雑で分かりにくくなってしまいます。このため、行政運営の基本的な経費（福祉や教育、土木など）を「一般会計」として、国民健康保険や公営住宅事業など、特定の事業にかかる経費を「特別会計」として管理しています。また、下水道事業と病院事業は、独立採算性の「企業会計」として経営を管理しています。

健全化判断比率

指標	結果	早期健全化基準	各指標の内容
実質赤字比率	数値なし	13.05%	一般会計を中心とした赤字の割合を表す指標です。
連結実質赤字比	数値なし	18.05%	一般会計のほか、特別・企業会計も含めた全会計の赤字の割合を表す指標です。
実質公債費比率	6.8%	25%	市の平均的な年間収入に対する借返済額の割合を表す指標です。
将来負担比率	18.2%	350%	市の平均的な年間収入に対する将来に負担が見込まれる負債（借金）の割合を表す指標です。

※この基準を超えると国の定めに従い、健全化に向けた取り組みが必要となります。

指標	結果	経営健全化基準	各指標の内容
資金不足比率	下水道事業 数値なし 病院事業 数値なし	20%	公営企業（滝川市は下水道事業と病院事業が該当）の資金不足額が、事業規模に対してどの程度の割合なのかを表す指標です。
		20%	

※資金不足比率が経営健全化基準を上回った場合には、経営健全化計画を策定し、経営の健全化に努めなければなりません。

令和6年度予算の執行状況

令和6年9月末現在

▼各会計の現在高

	予算額	収入済額	執行率（対予算）	支出済額	執行率（対予算）
一般会計	228億5,589万円	110億3,864万円	48.3%	98億740万円	42.9%
特別会計					
国民健康保険	44億2,596万円	17億9,392万円	40.5%	16億9,057万円	38.2%
公営住宅	8億3,872万円	2億3,034万円	27.5%	2億4,508万円	29.2%
介護保険	41億2,868万円	23億2,123万円	56.2%	14億3,258万円	34.7%
後期高齢者	7億9,565万円	3億6,413万円	45.8%	2億2,973万円	28.9%

▼企業会計の現座高

		収入			支出		
		予算額	執行済額	執行率（対予算）	予算額	執行済額	執行率（対予算）
下水道事業	収益的収支	13億3,225万円	5億5,675万円	41.8%	13億1,779万円	1億5,336万円	11.6%
	資本的収支	4億9,011万円	8,569万円	17.5%	9億5,860万円	3億1,017万円	32.4%
病院事業	収益的収支	74億3,283万円	18億4,588万円	24.8%	77億5,127万円	26億6,878万円	34.4%
	資本的収支	3億532万円	226万円	0.7%	8億4,459万円	3億3,170万円	39.3%

▼一時借入金の現在高

令和6年9月末現在の一時借入金の残高は0円です。

※市が一時的に資金不足となった場合、金融機関から借りるお金を「一時借入金」といいます。

問合せ先 財政課 Tel.28-8008

市の財産（令和5年度末）

土地	建物	基金	有価証券	出資金
1,406万㎡	34万㎡	現金など 79億744万円	3,485万円	37億2,329万円

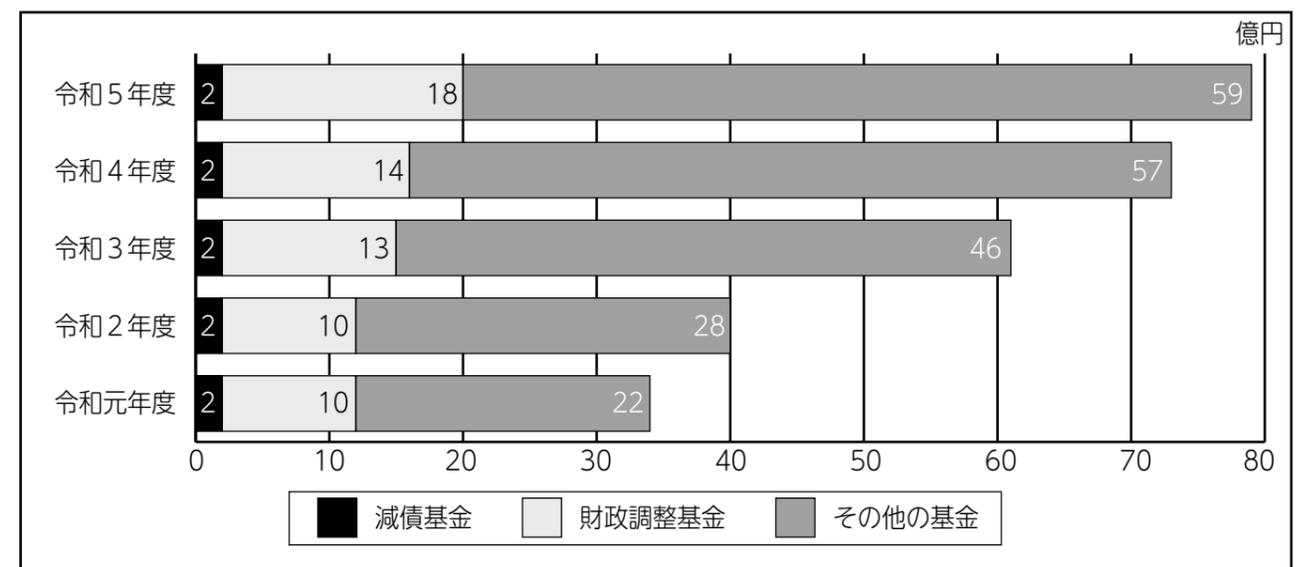
市債の現在高と基金残高推移

▼市債の現在高（令和5年度末）

会計	金額
一般会計	134億3,295万円
公営住宅事業特別会計	22億7,586万円
下水道事業会計	49億2,370万円
病院事業会計	74億8,497万円
合計	281億1,748万円



▼基金（市の貯金）残高推移



※減債基金とは、将来の借金の返済に備え、積み立てる基金です。

※財政調整基金とは、年度によって生じる財源の不均衡を調整するための基金です。

市民1人当たりの金額

令和5年度決算を基に税金（国民健康保険税除く）、借金（一般会計分）、貯金を1人当たりに置き換えてみました。

- 市民1人が納めた税金 ……120,410円
- 市民1人の貯金（基金） ……214,812円
- 市民1人の借金（市債） ……364,917円

※ただし、市債の63.2%は国から地方交付税として戻してもらえますので、実質的な市民1人の借金（市債）は134,345円となります。